

# 東京音楽大学リポジトリ

## Tokyo College of Music Repository

### CDスペイン・ビウエラ音楽Vol. II 『エンデチャ、もしもイルカ達が愛に死すなら』の 制作について

メタデータ	言語: ja 出版者: 公開日: 2016-05-30 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 水戸, 茂雄 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://tokyo-ondai.repo.nii.ac.jp/records/1059">https://tokyo-ondai.repo.nii.ac.jp/records/1059</a>

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



正誤表  
Errata

掲載日	2015-03-30	訂正事由
p. 31, l. 2	(正) Libro de música (誤) Lubro de música	著者による

## CDスペイン・ビウエラ音楽 Vol. II 『エンデチャ、もしもイルカ達が愛に死すなら』の制作について

Making a CD - Spanish Vihuela Music Vol.II "Endecha - If dolphins die of love"  
(Musicas para Vihuela Vol. II Endechas Si los delfines mueren de amores)

水戸茂雄 MITO Shigeo

このCDはVol. Iに続き、16世紀スペインで使用されたビウエラという楽器の新たな製作と、この楽器のために作曲された曲を録音したものである。楽曲内容は現存する7人の作曲家の曲集からVol. Iでは取り扱われなかった残りの4人の作品の中から5〜7曲ずつ選択した。この結果、Vol. IとVol. IIで7人を網羅したことになり、ルネサンス音楽(特にスペイン)を学習する者にとって良い資料となるであろう。

### 1. ビウエラ：録音のための楽器製作にあたって

#### 1-1. 現存するビウエラ

16世紀スペインの大航海時代、黄金世紀に花形楽器として使用された撥弦楽器ビウエラはスペインを始め全世界でも現在では殆ど残されていない。また現存するビウエラもスペイン以外の国で発見されていることも特異である。

- パリのジャックマール-アンドレ博物館所蔵

エミリオ・プジョール (1886-1980) によってビウエラと鑑定されている。

サイズ (単位 mm)

全長 1123 胴長 588 ネック長 338

有効弦長 757-798 胴幅 (上/中/下) 298 / 270 / 319

- エクアドルのキトのイエズス会の教会に保存

エクアドルの聖人マリアーナ・デ・ヘススの所持品

サイズ (単位 mm)

全長 1015 胴長 505 ネック長 315

有効弦長 727 胴幅 (上/中/下) 225 / 195 / 270

- パリ音楽院附属博物館所蔵 Vihuela, anonyme, E. 0748 (Cite de Musique, Paris)

1997年に発見された後、図面が公開され関係者に多大な衝撃を与えた楽器。背面はマルチリブで組まれており、響板には2本の力木しか使用されていない。

サイズ (単位 mm)

全長 901 胴長 433 ネック長 291

有効弦長 645 胴幅 (上/中/下) 273 / 240 / 325

• ロイヤル・カレッジ・オブ・ミュージック博物館所蔵 (Belchior Dias, Lisbon, 1581)

前記のパリ音楽院付属博物館所蔵の楽器と形態を比較すると、構造上の共通点から、5 コース・ビウエラの可能性があるとして Schreiner が 2002 年に指摘している。

サイズ (単位 mm)

全長 770 胴長 360 有効弦長 550

## 1-2. ビウエラのコピーモデルの選択

ビウエラを製作するにあたり、ビウエラ音楽 Vol. I 『O gloriosa domina おお 栄光の聖母』で自作製作に使用した図面、パリ音楽院付属博物館所蔵 Vihuela, anonyme, E. 0748 (Cite de la Musique, Paris) を元に、構造上共通点のあるロイヤル・カレッジ・オブ・ミュージック博物館所蔵 (Belchior Dias, Lisbon, 1581) の弦長をヒントにした。さらに、新たに弦長 540 mm の 1 コースが A で始まる A Vihuela の図面を起こし、ギター製作家堤謙光氏に 2012 年に委託製作を依頼した。

## 1-3. 試作品の製作

Vol. I の時に製作したビウエラの響板、側板、裏板を考察し直し、響板の板厚を変え、力木の本数も 1 本増やした。前回、側板、裏板は楓を使用した。今回はより硬質のローズウッドを使用し、それに合わせて板厚も変えた。背面はマルチリブではなくフラットにした。その結果、完成品は音量があり、ある程度遠達性も確保されている。音質は柔らかいまるやかなもので、バランスは中音域から低音域にかけては少し不満が残るものの、かなり良い結果が出た。完成品は 2012 年 10 月「水戸茂雄リユートリサイタル」で発表した。

## 1-4. 本作品の製作

2012 年 10 月「水戸茂雄リユートリサイタル」で試作品のビウエラの諸々の欠点があったので、今度はそれを補うための修正の図面を起こし、再度ギター製作家堤謙光氏に本作品を製作委託。音質は少し硬めになり、各コース (ビウエラは 6 コース) のバランスが良くなり、どのポジションでも音の立ち上がりが速く、且つ、音の持続力の長い豊かな音量を得た。従ってビウエラ曲のようなポリフォニー音楽を演奏するには、理想的な分離の良さと音のバランスを確保できることになった。2013 年 10 月「水戸茂雄リユートリサイタル」で本作品を発表。会場での遠達性、バランス、音量、音質の総合的なものに良い結果を得た。

## 2. ビウエラの音楽：作品と録音のための選曲

### 2-1. 作曲家とその作品

作曲家の名前がわかる作品はごく僅かで現存する作品集は 16 世紀に出版された 7 人の

ものが確認されている。年代の早いものから順に上げる。

- ・ Luys Milán (1500頃 -1561/以降没) : Lubro de música de vihuela de mano (Valencia, 1536)
- ・ Luys de Narváez (1530-1550 活躍) : Los seys libros del Delphin de música (Valladolid, 1538)
- ・ Alonso Mudarra (1510 頃 -1580) : Tres libros de música en cifras para vihuela (Sevilla, 1546)
- ・ Enriquez de Valderrábano (16 世紀中期活躍) : Libro de música de vihuela, intitulado silva de sirenas (Valladolid, 1547)
- ・ Diego Pisador (1509/10-1557 以降没) : Libro de música de vihuela agora nuevamente compuesta (Salamanca, 1552)
- ・ Miguel de Fuenllana (16 世紀初期 -1568 以降没) : Libro de música para vihuela intitulado Orphenica lyra (Sevilla, 1554)
- ・ Esteban Daza (1575 年活躍) : Libro de música en cifras para vihuela, intitulado el Parnasso (Valladolid, 1576)

## 2-2. Vol. II の録音曲の選択

Luys Milán, Luys de Narváez, Alonso Mudarra の作品は既に Vol. I で選曲し録音されているので、Vol. II では残りの Enriquez de Valderrábano, Diego Pisador, Miguel de Fuenllana, Esteban Daza の 4 人の作品を取り上げた。

選曲するにあたり、どの曲が適当であるかを考える必要があった。スペインのこの時代の代表的な形式、流行したものを取り上げて、そこから音楽的に優れており、尚且つ楽しく聴ける曲を選ぶこととした。

1. ディフェレンシアス *Diferencias* - 16 世紀のビウエラやオルガンの変奏曲を意味するもの。
2. ファンタシア *Fantasía* - 当時の作曲様式でポリフォニー音楽の最もポピュラーな曲。
3. ビリヤンシーコ *Villancico* - 古くからの民謡をビウエラ独奏曲やビウエラ歌曲にしたもの。
4. ロマンセ *Romance* - スペイン語の詩の形式でビウエラ歌曲では、物語風の詞でビウエラの伴奏に合わせて歌唱される。
5. ティエント *Tiento* - 15 世紀中葉にスペインで生まれた形式で、ファンタシアやリチェルカーレと似ている。
6. これらに当時の社会に欠かせない宗教的要素を付加すればより内容が厚くなる。
7. ビウエラ歌曲には、ビウエラの楽譜の中に歌の旋律が書かれたものがあり、それをビウエラだけで演奏しても十分価値が有る曲が数多く存在する。
8. ビウエラ歌曲にはレコンキスタ *Reconquista* (711 年から 1492 年まで行われたキリスト教国によるイベリア半島の再征服活動で、イスラム教徒から国土を奪回した戦い。) の悲哀を歌った曲が多数存在する。

以上の条件を揃えていけば、選曲の絞込みはある程度成立することになると思われた。

### 2-3. エンリケス・デ・バルデラーバノ Enriquez de Valderrábano の選曲

バルデラーバノの曲集は全部で171曲あり、この中から7曲を絞り込んだ。2-2. で出した条件で最もふさわしいと思われるものを選曲。

1. ロマンセ『さてもカライノスは馬に乗り』(Segundo Libro Foli. XXVI) —イスラム教徒であるムーア人の騎士の物語で旋律も親しみやすい。歌詞付きだがビウエラ独奏でも遜色はない。
2. 『牝牛の番をして』にもとづくやさしい7つのディフェレンシアス (Septimo Libro Foli. XCVI<sup>v</sup>) —これは有名なロマネスカ (和声定型) に基づいたディフェレンシアス。
3. ビリャンシーコ『愛はどこからやってくるの』(Segundo Libro Foli. XXIII<sup>v</sup>) —ファン・バスケスの有名なビリャンシーコで旋律も美しい。歌詞付き。
4. 国王のパバーナ (Septimo Libro Foli. CIII) —国王の名に相応しい旋律を持つポリフォニー曲。
5. カンシオン『恋人よ、あなたを愛していることを許して』(Sexto Libro Foli. LXXXIX) —シャンソンをビウエラ独奏用に編曲したもので、対位法的な動きがある。歌詞なし。
6. ジョスカン・デ・プレのミサ曲『幸あれ海の星』にもとづくファンタシア (Quinto Libro Foli. LXXV<sup>v</sup>) —当時最高のフランドルの作曲家ジョスカンの宗教音楽を、ビウエラ独奏用に編曲したものの。
7. レドブレによるファンタシア (Quinto Libro Foli. LXX) —曲のはじまりはオーソドックスな模倣で進行するが、中盤からレドブレ (短い音価による装飾的パッセージ) で対声部が進行する。

### 2-4. ミゲル・デ・フエンリャーナ Miquel de Fuenllana の選曲

フエンリャーナの曲集は全部で182曲あり、この中から7曲を絞り込んだ。

1. エンデチャ『もしもイルカ達が愛に死すなら』(Libro sexto Foli. clxix) —エンデチャ (哀歌) は、大航海時代にスペインの宮廷で流行した。ルイス・デ・ナルバエスの曲集には、イルカに乗ってビウエラを演奏する男が描かれている。歌詞付き。
2. レドブレによるファンタシア (Libro sexto Foli. clxix<sup>v</sup>) —バルデラーバノの7. と同じ構成である。
3. ビリャンシーコ『何を使って洗いましょう』(Libro quinto Foli. cxxxviii) —当時の流行歌でフエンリャーナ以外にもナルバエス、バルデラーバノ、ピサドールがビウエラに編曲している。大変美しい旋律である。歌詞付き。
4. ゲレーロのビリャンシーコ『私は、苦しみながら死ぬ前に、助けて欲しい』(Libro quinto Foli. cxliiii) —当時のスペインの作曲家で、各地の大聖堂楽長を歴任したゲレーロの世俗曲の4声の原曲を、そのままビウエラに移している。歌詞付き<sup>1</sup>。
5. モラレスのミサ『ロム・アルメ』より‘そしてよみがえりました’とファンタシア (Libro primero Foli. viii<sup>v</sup>, ix) —ロム・アルメ (武装した人) の旋律を用いて当時多くの作曲家がミサ曲を書いた。それにフエンリャーナ自身によるファンタシアが続く。
6. モラレスのミサ『ロム・アルメ』より‘ベネディクトゥス’とファンタシア (Libro primero Foli. xlv, xlv<sup>v</sup>) —5. と同じミサ曲から‘サントゥス’の「祝せられるかな、主の御名で来られる方は」の箇所をビウエラ独奏用に写したものの。それにフエンリャ

ーナ自身によるファンタシアが続く<sup>2</sup>。

7. ロマンセ『アンテケラより』(Libro quinto Foli. cxlv) —レコンキスタによりモーロ人がアンテケラを去る心情を歌っている。旋律に深い哀愁が感じられる。歌詞付き。

## 2-5. ディエゴ・ピサドール Diego Pisador の選曲

ピサドールの曲集は全部で95曲あり、この中から6曲を絞り込んだ

1. ビリャンシーコ『夜は暗く短いのに』(Libro segundo Foli. ix) —恋にときめく女心を歌ったもの。ビウエラ独奏でも旋律の美しさが充分楽しめる。歌詞付き。
2. ロマンセ『聖ヨハネの朝』(Libro primero Foli. v<sup>v</sup>) —物語はフェンリャーナの7.の続きで、アンテケラが陥落したことをグラナダに伝えに来るというもの。歌詞付き。
3. ビリャンシーコ『誰がそのような力を持っているのか?』(Libro segundo Foli. ix<sup>v</sup>) —題名に沿った力強い歯切れの良い作品。歌詞付き。
4. 『ミ・ラ・ソ・ミ・ファ・ミ』に基づく3声のファンタシア (Libro tercero Foli. xxiii) —ミ・ラ・ソ・ミ・ファ・ミのテーマが幾度も模倣される。テーマの旋律に躍動感があり、次々と絡み合うので大聖堂の鐘を連想させる。
5. 定旋律を持たないもうひとつの3声のファンタシア (Libro tercero Foli. xxiii) —しっとりした旋律が落ち着いた雰囲気を漂わせていて、スペイン・ルネサンスの様子を伝えてくれる曲。
6. フランスのシャンソン『乱れた足どり』(Libro septimo Foli. lxxxii<sup>v</sup>) —これは曲の経路が興味深い。本来、イタリアのマドリガーレであるが、フランスの出版のピエール・アテニャンがフランス語に訳して出版している。ピサドールはここからビウエラに編曲したようで、そのために題名がフランス語表記になったらしい<sup>3</sup>。

## 2-6. エステバン・ダサ Esteban Daza の選曲

ダサの曲集は全部で62曲あり、この中から5曲を絞り込んだ。

1. ビリャンシーコ『異郷の地にて』(Tercer Libro Foli. 97) —異郷の地に連れて来られた悲しみを歌っている。その旋律が悲しく表現されている。歌詞付き。
2. ビリャンシーコ『小麦色の少女は叫んだ』(Tercer Libro Foli. 102<sup>v</sup>) —リズムの変化が力強さをよく表現している。歌詞付き。
3. ファンタシア第19番 (Primer Libro Foli. 27) —ダサのファンタシアの中でも質の高さが際立っている音域の広い難曲。ダサ本人の超絶技巧の技量を知ることが出来る。
4. ファンタシア第3番 (Primer Libro Foli. 4) —しっかりとした構成のファンタシアで落ち着いた進行で当時の空気を感じさせる。
5. ビリャネスカ『澄んだ泉と』(Segundo Libro Foli. 84) —弦を弾いた時に出る澄んだ響きは当時のスペインの景色を思い浮かばせる力を持っている。幾度聴いても耳に心地良さを与える曲。

以上を選択しCD録音の曲とした。

### 3. 終わりに

#### 3-1. 録音と解説

録音は2013年の7月と8月の2回に分けて都内のスタジオでエンジニアの三本木勝己氏に依頼した。今回で5回目の録音依頼でマイクのセッティングも前回と同様に右手元から10センチ程度の位置にセットし演奏した。楽器は超高性能のアンプとスピーカーのようなものであるので撥弦される音楽的振動音も弦を擦る雑音も全て拾い上げることになる。従って右手の弾弦時のミスタッチや横に擦ってしまって発する雑音を極力避けて音楽的振動音だけをマイクに入れるように演奏した。

解説は大分県立芸術文化短期大学教授の小川伊作氏に依頼した。今回で6度目となる。私の録音曲はルネサンス、バロックやロココ時代のもので、常に多量の未知の曲を発表する。そのため、曲にたどり着くのが容易ではない。氏は不可能と思われる物件も、膨大な資料の中から必ず解答を見つけて提示される。今回のビウエラ曲は、国内では全曲が初録音だと思われるので、資料探しも困難を極めたに違いない。その意味からしても、小川伊作氏の解説は、一級資料として大変貴重なものである。

最後に、学生、専門家や愛好家を問わず多くの方々が、それぞれのCDに収録された楽曲と解説を研究資料として役立てていただけることが、私のCD制作にあたっての強い意図である。

### 4. 参考資料

#### 4-1. 楽譜

**Milán, Luys.** 1536. *Libro de música de vihuela de mano. Intitulado El maestro.* Valencia (Minkoff 1975, Sociedad de la vihuela de España CD-ROM)

**Narváez, Luys de.** 1538. *Los seys libros del Delphín, de música de cifras para tañer vihuela.* Valladolid (Minkoff 1980, Sociedad de la vihuela de España CD-ROM)

**Mudarra, Alonso.** 1546. *Tres libros de música en cifras para vihuela.* Sevilla (Sociedad de la vihuela de España CD-ROM)

**Valderrábano, Enríquez de.** 1547. *Libro de música de vihuela, Intitulado Silva de sirenas.* Valladolid (Sociedad de la vihuela de España CD-ROM)

**Pisador, Diego.** 1552. *Libro de música de vihuela.* Salamanca (Sociedad de la vihuela CD-ROM)

**Fuencilla, Miguel de.** 1554. *Libro de música para vihuela. Intitulado Orphénica Lyra.* Sevilla (Oxford 1978, Sociedad de la vihuela de España CD-ROM)

**Daza, Esteban.** 1576. *Libro de música en cifras para vihuela. Intitulado el Parnasso.* Valladolid (Sociedad de la vihuela de España CD-ROM)

#### 4-2. 洋書

**Bermudo, Juan.** 1995/6. On playing the vihuela from *Declaración de Instrumentos Musicales* (Osuna, 1555) translated by Dawn Astrid Espinosa. *The Journal of the Lute Society of America* xxiii1-131.

**Brown, Howard Mayer.** 1967. *Instrumental Music Printed Before 1600. A Bibliography.* Cambridge, Massachusetts; Harvard University Press.



- Pohlmann, Ernst.** 1975. *Laute, Theorbe, Chitarrone: die Lauten-Instrumente, ihre Musik und Literatur von 1500 bis zur Gegenwart*, 3. Aufl. Liliental/Bremen: Veröffentlichung des Archivs Deutsche Musikpflege.
- Gonzalez, Carlos.** 2000. *Notice technique d'accompagnement du dessin technique Vihuela?* (E. 0748) Musée de la musique Paris.
- Radole, Giuseppe.** 1982. *Laúd, Guitarra y Vihuela. Historia y Literatura.* EDICION DON BOSCO.
- Smith, Douglas Alton.** 2002. *A History of the lute from Antiquity to the Renaissance.* The Lute Society of America.
- Sociedad de la vihuela de España.** 2002. *Libros de música para Vihuela 1536-1576* (CD-ROM). Spain.

#### 4-3. 和書

- 川崎, 桃太. 2003. 『フロイスの見た戦国日本』. 中央文庫.
- 松田, 毅一、川崎, 桃太. 2000. 『完訳フロイス日本史 1-12』. 中央文庫.
- 皆川, 達夫. 1977. 『中世・ルネサンスの音楽』. 講談社.
- 横田, 庄一郎. 2000. 『キリシタンと西洋音楽』. 朔北社.

#### 4-4. 参考文献

- 小川, 伊作. 2004. ビウエラ研究序説 *La Introducción del Estudio sobre la Vihuela*. 大分県立芸術文化短期大学共同論集、日欧文化社会史研究 - グローバリゼーションのなかのヨーロッパ・日本.
- 坂崎, 則子. 2007. 手稿譜『*Ramillete de Flores*』に見る 16 世紀スペインのビウエラ音楽. 東京音楽大学研究紀要. 第 31 集別刷.
2012. ルネサンスの器楽興隆の様相. ースペインにおけるビウエラのファンタジア. 東京音楽大学研究所紀要. Vol. 36, p. 65-84.

#### 4-5. CD 資料解説

- 小川, 伊作. 2004. 『*O gloriosa domina* おお 栄光の聖母 ビウエラ音楽 Vol. I / 水戸茂雄』 (NSCD-54501)
- 小川, 伊作. 2014. 『*Endechas Si los delfines mueren de amores* エンデチャ もしもイルカ達が愛に死すなら ビウエラ音楽 Vol. II / 水戸茂雄』 (NSCD-54504)

注：

1. 小川 2014:9.
2. 小川 2014:10.
3. 小川 2014:12.

(本学講師、バロック等 リュート)

